

広報編集部 新企画スタート！

よこさいOT名鑑 ～あなたの作業療法～



左:渡邊氏 右:島田氏

この度、広報編集部の新企画として「よこさいOT名鑑～あなたの作業療法～」がスタートします。同じ高知県で働いている作業療法士であっても、職場が違えばなかなか知ることのできない仕事内容やその方の想い、人となりなどを伝えられる企画になればと思っています。それにより同じ高知県で働く作業療法士の仲間を身近に感じることや、繋がりを作るきっかけにもなればと思っています。今後、士会のホームページへ掲載していきますので、是非ともご覧ください。

白菊園病院リハビリテーション科
作業療法士 島田 尚典 氏

【プロフィール】

1984年生まれ、高知県高知市出身。
高校卒業後、大学進学を機に上京。
大学卒業後は東京でドラッグストアへ就職し一般職員として勤務。
その後、土佐リハビリテーションカレッジに28歳で入学。
卒業後は医療法人白菊会 白菊園病院へ入職し現在に至る。



渡邊

大学進学を機に上京して卒業後も東京で社会人として働いていた島田さんが、リハビリテーション（以下：リハビリ）や作業療法士の道に進もうと思ったきっかけを教えてください。

島田氏

人の役に立てる職業として作業療法士を選びました！

私の考え方として、仕事でお金を頂くということは人の役に立って初めて頂けると思っています。そのため、より直接的に人の役に立てると考えて医療職に興味を持ちました。医療職の中でも祖母がリハビリの方にお世話になっていたのを見て、特にリハビリに興味を持つようになりました。

渡邊

医療職の中でも特にリハビリの仕事は対象者の方と長く密に関わることが多い仕事ですね。リハビリの職種の中でも作業療法士になろうと思われたのはなぜですか？

島田氏

はじめは理学療法士になろうと思っていました。ただ母校である土佐リハビリテーションカレッジのオープンキャンパスでいろいろな話を聞いているうちに、作業療法士の方が自分に向いているのではないかと考えるようになりました。対象者の生活を重点的にみるということや、精神分野にも強いということに興味も持ちました。自分の家族のことも考えたりして、自分にとって将来の役に立つのも作業療法士の方かなと考えました。その後に自分で作業療法士について調べて、高知でリハビリ職として働く場合に、作業療法士の方が求人も多く、就職の面でも有利なのではないか、という思いもありました。

渡邊

どの職種もそれぞれ魅力があるので受験するときに悩む方も多いと思いますが、島田さんはそういった理由で作業療法士を選ばれたのですね。また、就職ということも考えると、求人のもも大切なことだと思います。島田さんは土佐リハビリテーションカレッジを卒業後、白菊園病院へ入職して現在6年目になりますが、領域や分野など現在の職場での仕事内容を教えてください。

島田氏

患者さんの喜ばれている姿を見たときに心から嬉しく思います！

現在は回復期リハビリテーション病棟で働いています。主に脳血管障害、運動器、廃用症候群の方が入院されています。白菊園病院は特に高齢の方が多く、入院される前から何らかの疾患を抱えられている方も多くおられます。

渡邊

高齢の方が多いと既往歴や合併症なども多く、様々なことに気を付けてリハビリを進めていく必要がありますね。島田さんが日々の仕事をしている中で良かったと思うのはどのような時ですか？

島田氏

やはり患者さんが元気になられる様子や、できなかったことができるようになり喜ばれている姿を見た時が、この仕事をやっていて最も良かったと思う瞬間です。元気になられて、本当に喜ばれて退院される姿を見た時も心から嬉しく思います。患者さんと直接関わる業務以外では、新しい仕事を任せられた時も嬉しく思います。今後も任せてもらえる仕事をどんどん増やしていきたいと考えています。

渡邊

患者さんが良くなられて、退院される時は本当に嬉しく思いますよね。日々の仕事をしていると良かったことだけではなく、大変なことも多いと思いますが、島田さんはこれまでにどのようなことが大変でしたか？

島田氏

これまでで一番大変というか、苦労したことは患者さんとのコミュニケーションの取り方です。作業療法士になったばかりの頃は、患者さんとの円滑な人間関係や信頼関係を作ることに大変苦労した覚えがあります。そのような中で先輩方には多くの指導をしていただきました。姿勢や話しかけ方、関わり方などを学び、おかげで少しずつそれらを自分のものにしてことができました。以前と比べると人間関係を構築することや、円滑な関係を作ることができるようになりました。それにより、より良いリハビリに繋げていくことができるようになったと思います。

渡邊

仕事をしていると大変なことも多くありますが、経験して乗り越えることができれば自分自身の成長にも繋がりますね。良い仕事をするためには休息や息抜きも大切だと思いますが、島田さんは仕事が終わった後や休日はどのように過ごしていますか？

島田氏

仕事が終わったあとは、家に帰ってお酒を飲むことが楽しみです。家にお酒は売るほど置いてあります。実家が酒屋なので(笑)。ただし飲むのはビール1本程度にして、翌日にお酒が残らないようにしています。休日は実家の手伝いなどもしています。また、趣味であった食べ歩きや飲み歩きが、コロナ禍になってから制限されている状況なので、最近はテイクアウトなどで買ってきて食べることにもハマっています。

渡邊

おいしいお酒や食事を楽しむことは最高ですよね。次に島田さんが仕事をしている中で、現在、興味を持っていることや専門性を高めようとしていることがあれば教えてください。

島田氏

今後は在宅医療や地域リハビリテーションについて より取り組んでいきたいと思っています！

今現在、興味を持っている分野は在宅医療についてです。訪問などの地域のリハビリにも興味を持っています。それに加えて、介護支援専門員の資格にも興味を持っています。その資格を持つことで、より多くの知識を得ることができれば、今後、作業療法士として仕事をする上でも活かすことができ、地域のリハビリなどにも繋げていくことができるのではないかと考えています。

渡邊

作業療法士として働く上でも、より広い視野を持つことができそうですね。最後にこれからの抱負、また今後どのような作業療法士になりたいかを教えてください。

島田氏

～これからの抱負について～

これからの抱負として大きなことは言えないのですが、これまで上司や先輩方にたくさんのお話を教わり、助けてもらったことで今の自分があると考えています。そのため、今後は今まで教わったことや経験してきたことを、少しでも後輩たちにも伝えていきたいと思っています。それがまた患者さんのためにもなってくれたらと思っています。また、これまではずっと余裕がない状態で、周りが見えていなかったところがあったようにも思います。少しずつ自分のこと以外もみることができるようになってきたので、少しでも先輩方の負担を減らせられるように頑張っていきたいと考えています。どのような作業療法士になりたいかは、まだ自分の中で明確な答えがみつけれないのですが、今後はそのようなことも考えながら、明確なビジョンが持てるようにリハビリを行っていきたくと思っています。

取材者：渡邊 一規(白菊園病院)